さんいん
企業物語
SAN-IN COMPANY STORY

企業警備保障

1 創業

後長佑社長＝松江市大庭町、企業警備保障本社前

島根県初の警備会社・企業警備保障㈱（松江市大庭町、後長佑社長）は工事現場での交通誘導、商業ビルなどの施設管理、イベント時の雑踏警備などで、地域に暮らす人たちの安全・安心を守ってきた。担当エリアは中国5県全てに及び、中国地方最大級の売り上げを誇る警備会社でもある。高齢化による人手不足が進む中、ITや人工知能（AI）の活用による新しい警備にも取り組みだしている。

わずか7人でスタート

日本における警備業は、1964（昭和39）年の東京オリンピックを機に大きく発展していった。当初の主な仕事は交通誘導で、建設現場で関係車両を誘導したり、周囲を通る人や車の安全確保などを行ったりした。全国に警備会社が増えだす中、企業警備保障は島根県初の警備会社として、77（同52）年7月に発足した。

5代目社長の内田和己氏

創業の経緯について、会長の後長利春（66）は次のように推察する。「初代社長の大濱義幸は、もともと広島の警備会社にいたと聞いています。当時はそれまで警察が担当していた花火などのイベントの雑踏警備も警備会社が引き受け、少しずつ仕事が増えていました。次第に松江や出雲での仕事も増え、独立を決めたのではないでしょうか」

創業時のメンバーは4人の役員を含めて7人、9月には早くも出雲市と米子市に事務所を開設、11月には広島市にも開設するが、経営は不安定な状態が続いた。交通誘導の仕事は年度初めは少ないが、夏から急増するなど増減が激しい。特に冬場は仕事が少なく、事務所を設けたものの開店休業状態も多かった。少ない売り上げを補うため役員が持ち寄った米や野菜で、ご飯を炊いたりみそ汁をつくったりした時代もあった。

また交通誘導は「旗を持ったおじさん、おばさんの仕事」というイメージが強く、高齢者しか、なり手がなかった。慢性的な人手不足で、役員自ら現場に出ることも、しばしばだった。

経営者も頻繁に変わった。81（同56）年に警察OBの幡本英夫が2代目に就くと、翌82（同57）年には創業メンバーの一人、井上幸夫が3代目に就任した。しかし井上は翌年辞め、幡本が再び社長になった。

【会社概要】
企業警備保障株式会社／松江市

設立	1977（昭和52）年7月12日
営業種目	施設警備・交通誘導警備・身辺警備・空港保安・空港消防・防災コンサルタント・防災カメラおよびサーマルカメラ販売施工・ビル総合管理・建物清掃・信用調査・医療事務等
資本金	3千万円
代表者	後長佑
従業員数	760人
売上高	26億円
所在地	松江市大庭町1812-5
電話番号	0852(25)6500

［事業所］松江支社・出雲支社・石見支社・米子支社・鳥取支社・石見中央営業所・清掃設備事業本部・清掃設備出雲営業所・出雲ショールーム・大田出張所・雲南出張所・三次事務所・津山営業所・宇部事務所・萩事務所・岡山事務所

施設警備で安定経営の時代へ
3空港での保安業務にも参入

開設、11月には広島市にも開設するが、経営は不安定な状態が続いた。交通誘導の仕事は年度初めは少ないが、夏から急増するなど増減が激しい。特に冬場は仕事が少なく、事務所を設けたものの開店休業状態も多かった。少ない売り上げを補うため役員が持ち寄った米や野菜で、ご飯を炊いたりみそ汁をつくったりした時代もあった。

また交通誘導は「旗を持ったおじさん、おばさんの仕事」というイメージが強く、高齢者しか、なり手がなかった。慢性的な人手不足で、役員自ら現場に出ることも、しばしばだった。

経営者も頻繁に変わった。81（同56）年に警察OBの幡本英夫が2代目に就くと、翌82（同57）年には創業メンバーの一人、井上幸夫が3代目に就任した。しかし井上は翌年辞め、幡本が再び社長になった。

5代目が迷走に終止符

迷走に終止符を打ったのは、5代目社長の内田和己だった。大手警備会社・綜合警備保障㈱鳥取支社の次長だった内田は、83（同58）年12月に引き抜かれる形で入社し、社長に就任した。

内田がまず行ったのは、機械警備への参入だ。機械警備はセンサーなどを使った施設警備で、一度契約すれば毎月一定の収入が見込める。綜合警備保障時代から営業が得意だった内田は、すぐに30件ほどの契約を結んだ。さらに施設警備を得意とする機械警備会社から仕事を請け負う形で、出雲オムロンなどの警備も担った。

施設警備で固定売り上げを確保することで、経営は徐々に安定するようになった。共同組合形式のショッピングセンターや大型スーパーの出店が増えだした時期でもあり、これらのオープン警備や施設警備の仕事も増えていった。

84（同59）年には資本金をそれまでの800万円から1200万円に増資し、さらに85（同60）年に1600万円に増資した。社員も150人に増え、87年（同62）年には創立10周年を記念してホテル宍道湖で式典を開いた。

10周年記念パーティー＝松江市西嫁島、ホテル宍道湖（1987年）

20周年記念パーティー＝松江市千鳥町、ホテル一畑（1997年）

県の施設管理にも意欲

さらに内田は、島根県の施設管理への参入にも意欲を示した。そのための布石が電気・通信工事を行う子会社㈱サンアート商事の業務に、清掃を加えたことだ。当時、同県の警備の仕事を請け負うには、清掃業務も同時に請け負う必要があった。警備も清掃もできることが入札の条件で、そのため同県の仕事はビルメンテナンス会社が清掃を主業務としながら、守衛や夜警も兼任していたからだ。

90（平成2）年には新たにオープンした米子サティ、出雲市斐川町に進出した出雲村田製作所の施設警備も担当。92（同4）年4月には、鳥取空港と米子空港の保安業務も始めた。

空港警備は警備会社にとって大きなステータスで、多くは大手会社が請け負う。地方の会社が2空港を手掛けるのは、極めて異例のことだった。7月には2空港での実績が買われ、新しく開港した萩・石見空港の保安業務も任された。

交通誘導する企業警備保障の社員

清掃業務にも進出した企業警備保障は94（同6）年、ついに大田集合庁舎の仕事を落札した。翌年は逃したが、96（同8）年の入札で今度は出雲合同庁舎の仕事を落札した。「以後、出雲合同庁舎の仕事はずっと続いています。県の仕事はやがて警備と清掃の分離発注方式になりますが、これはわれわれの仕事が評価された結果だと思っています」。警備会社の存在価値を示せた喜びを利春は語る。

97（同9）年には創立20周年式典をホテル一畑で開催。永年勤続社員表彰のほか、安来市出身で内田の中学時代の同級生の歌手・宇山保夫を招いた歌謡ショーなど盛大に行われた。

（文中敬称略）

―次号に続く―

（フリーライター・内藤潤）